

平成27年10月15日

No.311

畜産会 経営情報

主な記事

- ① セミナー経営技術
平成27年度畜産特別資金等推進事業に係るブロック会議における経営改善指導の状況および課題等について (公社)中央畜産会
- ② セミナー生産技術
繁殖性を高めるためのポイント
—繁殖の問題を整理、改善する— 中田 健
- ③ おらが故郷の経営自慢
地域が支え、地域を支える担い手として 東京谷農業協同組合 工藤祐希江
- ④ 中央畜産会からのお知らせ
「平成27年度全国優良畜産経営管理技術発表会」開催のお知らせ
- ⑤ (独)農畜産業振興機構からのお知らせ
肉用牛肥育経営安定特別対策事業(新マルキン事業)の補填金単価(概算払)について
- ⑥ あいであ&アイデア
子牛の防寒対策で発育向上～安価で衛生的な木枠式子牛ベット～
大分県 白根 英治

公益社団法人 中央畜産会

〒101-0021 東京都千代田区外神田2丁目16番2号
第2ディーアイシービル9階
TEL 03-6206-0846 FAX 03-5289-0890
URL <http://jlia.lin.gr.jp/cali/manage/>
E-mail jlia@jlia.jp

セミナー 経営技術

平成27年度畜産特別資金等推進指導事業に係るブロック会議 における経営改善指導の状況および課題等について

(公社)中央畜産会

平成27年度は、下表の通り全国4ヵ所でブロック会議を開催し、畜産特別資金等の借受者にかかる経営改善指導事業の効果的推進のため、各道府県機関における指導の状況や課題についての相互の情報交換を行い、認識の共有や指導手法・方策等についての理解を深め取り組みの強化を図ったところです。

すでに、本誌No.309、310号において、北海道・東北ブロック、九州・沖縄ブロックにおける開催内容についてスポット的に紹介しましたが、全体的な総括を行ったので今後の経営改善指導事業の取り組みの参考にしてください。

(ブロック会議開催状況)

ブロック名	開催日	開催地
北海道・東北	平成27年7月9～10日	山形県
関東・北陸	平成27年7月2～3日	石川県
東海・近畿・中国・四国	平成27年9月1～2日	広島県
九州・沖縄	平成27年7月23～24日	鹿児島県

各ブロック会議における 課題の総括

(1) 畜産特別資金制度の周知

・畜産特別資金制度の趣旨・目的、畜特資金

借受者、融資機関、支援協議会の構成団体等の義務や役割が十分に理解されていない。

・対策が必要な畜産経営に畜特資金制度の内

容が十分に伝わっていないことが懸念される。

- ・畜特資金に対するマイナスイメージから制度の活用を敬遠する畜産経営がある。

(2) 農協の取組課題

- ・畜特資金制度における融資機関の責任と果たすべき役割を十分に理解していない農協がある。
- ・畜特資金借受者の経営継続や経営改善の可能性に関する最終判断など理事者の負うべき責任が実務の中で果たされていない農協がある。
- ・総合農協の中で融資部門、営農指導部門、経済部門など関係部門の連携が不十分なために、効果的な経営改善指導に結び付いていない場合が多い。
- ・人員、業務量、短期間での人事異動など組織体制の問題が、経営状況の把握をおろそかにし、畜特資金に関する情報が畜産経営まで行き届かないといった問題につながっている場合がある。
- ・短期間での人事異動や畜産担当職員の削減等により、畜特資金制度を熟知した職員や指導者の確保・育成が難しくなっている。

(3) 都道府県支援協議会の取組課題

- ・都道府県支援協議会は形式的な集まりという固定的な意識により、農協の指導体制の課題、畜特資金制度の周知徹底など包括的に検討できる問題も十分に議論が進んでいない。

(4) 畜特資金貸付計画作成時の現場確認

- ・畜特資金の貸付計画にあたって、重要案件であっても、県、畜産協会が現場に入らず、農協等から提出された計画書のみで妥当性や改善の可能性を判断している場合が散見される。

(5) 経営改善計画の見直し期間に対する認識

- ・本来、経営の改善を進める上で計画の見直しは常に行っていくべきことであり、その期間の長さが重要な議論になるものではない。しかし、畜特資金の事業実施要綱上の規定に議論が集中し、畜特資金云々の前に畜産経営の経営改善を進めていくという基本的な視点が失われている。

(6) 月次モニタリングの実施

- ・月次モニタリングのデータ活用の仕方やデータを活用した指導体制が十分に練られていない県がある。

(7) 指標の整備

- ・畜特資金貸付計画作成時、見直し計画作成時の参考指標となる数値が十分に整備されていない。

今後、検討すべき改善案



- (1) 平成26年度に検討し、平成27年度に措置した事項（畜産特別資金融通事業実施要領に規定）

① 道府県支援協議会およびモニタリング指導の報告義務化

- ・畜産特別資金等推進指導事業を実施している道府県に対して、支援協議会の開催およびモニタリング手法による濃密指導等の実

施状況等について、定期的な報告を義務化するとともに、実効のある実践に向けて指導する。

②濃密指導におけるモニタリング手法の導入

- ・借入者の経営改善のための指導等の強化を図るため、「濃密指導」にモニタリング手法を導入することを明確化する。

(2) 平成27年度の検討すべき改善案

①畜産特別資金制度の周知徹底

- ・県内で、単独、他事業との合同いずれかは問わず、対策が必要な畜産経営の掘り起こしに留意しつつ畜特資金制度の周知を図るよう県、畜産関係団体に働き掛ける。

②農協に対する畜特資金制度の理解醸成

- ・都道府県支援協議会の取り組みとして、農協に対する畜特資金制度の理解醸成に重点を置いた指導・研修会等の開催を強化する。
- ・畜特担当・指導者の確保・育成については、都道府県支援協議会による農協指導等を核にして現場の指導者を育成していくことを基本として、「畜産特別資金等借受者の指導のあり方と方策」や各種経営支援ツールを活用した全国段階・県段階の研修会の開催・強化を検討する。
- ・併せて、有識者の派遣や畜産関係OBなど外部人材の活用や他組織との連携による指導体制の強化について普及啓蒙していく。

③都道府県支援協議会の活性化対策

- ・都道府県支援協議会の活動の活性化を図るために、参考となる取組事例を収集し提供する。

- ・また、都道府県支援協議会の開催状況等について定期的な報告を義務化し、効果的な実施に向けて指導する。

- ・併せて、都道府県支援協議会において議論すべき課題について問題提起し活動の活性化を図る。

④畜特資金貸付計画作成時の現場確認の徹底

- ・畜特資金貸付けにあたって特に重要案件については農協、県出先機関からの報告に留まらず、県、畜産協会など県中央段階の組織（農畜産業振興機構ヒアリング出席者）が現場確認をするように働き掛ける。

⑤経営改善計画の見直し期間に対する理解醸成

- ・①、②に併せて、畜特資金制度の趣旨・目的と本義としての経営改善の意味、指導における留意点について周知徹底を図る。

⑥月次モニタリングの実施強化

- ・月次モニタリングの実施状況について定期的な報告を義務化し、効果的な実施に向けて指導する。
- ・また、月次モニタリングデータを活用した指導事例を収集し提供する。

⑦指標の整備

- ・経営改善計画、見直し計画の作成にあたって参考となる指標値の整備について、中央畜産会で実施する他事業やこれまでに収集・蓄積した経営情報の活用、中央畜産経営特別支援協議会構成団体との連携を通じた情報の収集・提供について検討する。

セミナー

生産技術

繁殖性を高めるためのポイント

—繁殖の問題を整理、改善する—

酪農学園大学 中田 健

はじめに

繁殖は、牛にとっては乳生産を継続して生存期間を延長するために必要であり、農場にとっては生産乳量を維持および向上し経営を維持安定化させるために必要です。

したがって、牛の繁殖性を高めることは農場の生産性を高める一つの要素と言えます。繁殖をよくしたいと考えたときに、何から始めたらいいのか、何をしたら効果が高いのか考えてしまうことはありませんか。

そこで、まずはじめに、一般的に繁殖性を高めるポイントについて、もう一度、整理して考えてみましょう。

次に、繁殖性を高めるためには、牛を視てどのようなことについて注意するべきか考えてみます。

繁殖性を高めるために大切な事

牛の繁殖を考える場合、大切な出来事は人工授精の実施、受胎（妊娠）、分娩の3つです。

農場で繁殖性が高いということは、ほとんどの牛でそれら一連のサイクルが計画的に効

率よく回っているということです。

その効率の良さは何が決めているのでしょうか。牛を受胎させるための要素から見てみましょう。

《受胎させるための要素の4段階》

1. 牛：発情行動、発情徴候を示す
2. 生産者：牛の発情を発見する
3. 人工授精師：適切な手技、適切な判断で人工授精を行う
4. 生産者：早期に不受胎牛を見つける

なお、不受胎牛が早期に発見された時には、再び1または2に戻るようになります。

以下、要素1から順に考えてみましょう。

1-①. 牛が発情徴候を示すためには：

- 1) 分娩前後の飼養管理が適切である
- 2) 分娩後に疾病の発生がない
- 3) 健康であり生殖機能の回復が早い
- 4) 卵巣周期が正常である
- 5) 発情徴候が発現する

1-②. 牛が発情行動を示すためには：

- 1) 発情徴候を発現できる
- 2) 環境／衛生／飼養管理が適切である：
床面が滑らない、寝起きや発情行動が
阻害されない、肢蹄等に疾病がなく健康である

2. 発情を発見するためには：

- 1) 環境／衛生／飼養管理が適切である：牛が健康である
- 2) 繁殖情報の管理が適切である：繁殖や改良の計画を立てる、繁殖の記録がある
- 3) 定期的な発情観察を行っている：回数と時間を十分にとる、記録をとる（時間、徴候、徴候の強さ）、発情・授精の記録は作業をする全員が見ることができる

3. 人工授精を行うためには：

- 1) 授精・発情の記録を確認する
- 2) 授精師に発情の牛の記録（時間、徴候、徴候の強さ）を説明する
- 3) 授精を行う・行ってもらう

4. 不受胎牛を早期に摘発するためには：

- 1) 環境／衛生／飼養管理を適切に行う
- 2) 授精後の次回および次々回の発情予定日前後に集中した観察をする
- 3) 授精後、早期に不受胎である牛を摘発する方法を身に付ける

牛を受胎させるためには、人、環境、牛の要因が全て関係します。繁殖の基本は、分娩後の人工授精開始予定時期に全ての牛に授精できるように周産期の牛群管理と発情発見、そして授精後に不受胎牛を早期に発見することです。

安定した生産サイクルを繁殖性の向上で築くためには

生産サイクルが安定しているか確認するための項目を考えてみましょう。

- 1) 経産牛頭数の推移：生産を担う動物

数、ストール数とのバランス

- 2) 経産牛分娩頭数：牛群の更新計画
- 3) 産次別牛群構成の推移：生産の基礎となる能力
- 4) 産次別泌乳能力（泌乳曲線、305日乳量）：個別の生産能力
- 5) 分娩時期の分布：年間の生産のバランスとバラツキ
- 6) 空胎日数／分娩間隔：生産の継続と生産サイクル
- 7) 人工授精の受胎率：生産サイクルの効率に影響する要因
- 8) 発情発見率：生産サイクルの効率に影響する要因
- 9) 周産期疾病の発生状況：生産サイクルの効率に影響する要因
- 10) 環境／衛生／飼養管理：牛群の生産環境の整備

それぞれの項目の意味

1) 経産牛頭数の推移

乳生産を支える基本となる数値です。草地面積、農場のストール数、作業員数、日々の作業内容などによって、その頭数の推移が適切であるか確認します。

全体の頭数が安定した推移を示していることが望ましいです。

2) 経産牛分娩頭数

更新の基礎となる数値です。年間の分娩頭数と2産以上の分娩頭数を確認します。計画的に更新ができている場合には、2産次以上の分娩頭数は変化せずに、初産の分娩頭数が毎年30%を超えない安定した頭数であること

が望ましいです。

3) 産次別牛群構成の推移

1年間を通じた生産の基礎となる数値です。

年間の産次別の分娩頭数により構成が変化します。産次別の頭数割合が、産次が増えるにつれて徐々に減少し、その推移が一定であると牛群として更新が計画的で安定しているといえます。産次別の頭数割合が産次の増加で増える産次、急激に割合の減る産次については、その原因を確認して対応する必要があります。

4) 産次別泌乳能力

産次別の泌乳曲線および泌乳持続性は分娩後の生産能力の参考情報です。泌乳曲線は各産次および泌乳ステージの飼料設計、泌乳能力別のペン移動の計画に役立つ情報です。

泌乳持続性は産次別の泌乳後期の乳量と飼料給与量／飼料費との収益とのバランスを考慮して、人工授精開始の計画および受胎させるべき分娩後日数を設定する際の情報となります。

5) 分娩時期の分布

年間の分娩頭数が均等にバラけることが、乾乳期の管理および出荷乳量のばらつきを少なくすることにつながります。実際は、夏季の暑熱ストレスなどの受胎率の低下に影響する要因により分娩が夏場に集中することがあります。

牛の病傷事故および死産事故は分娩後の30日以内に集中することから、分娩が集中する時期には分娩前の乾乳期管理に特に重点を置

いてください。

6) 空胎日数／分娩間隔

空胎日数は次の生産を開始する時期を予測するための数値であり、分娩間隔は生産を継続している牛の生産サイクルを知るための数値です。

これらの数値をよく利用しますが、とても注意が必要な数値です。空胎日数は受胎が確認された牛からだけ算出することができる数値です。授精していない牛、授精しても受胎できなかった牛は一切含まれません。また、空胎日数が算出された牛が必ず分娩するわけでもありません。分娩間隔も2回分娩が終了した牛だけの数値です。

すなわち、農場で繁殖を考える場合には、最初に、空胎日数が算出できない受胎できなかった牛を確認し、その理由により授精ができなかった牛、授精しても受胎しなかった牛の頭数を確認します。その後、空胎日数および分娩間隔を参考にします。

7) 人工授精の受胎率

分娩後の授精開始日、授精の季節、牛の状況および乳量水準、産次数、前産の分娩間隔などによっても影響を受けるため、他の状況も合わせて数値を参考にします。

8) 発情発見率

人による牛の記録と観察が最も重要な要因となります。

繁殖の計画と管理、発情発見方法、牛の状況にも影響を受けます。管理面では、分娩後の栄養の利用順位を考えた場合、①生存、②育子、③蓄積そして④繁殖の順になります。

周産期の飼養管理の重要性がここでも関連します。

9) 周産期疾病の発生状況

分娩直後に疾病の多発、さらに死亡および廃用事故、または売却になってしまう牛の割合が多い農場は、分娩した牛からの乳生産が減少し大きな損失となります。また、牛群の更新が計画通りに進みにくくなり、頭数確保のため受胎しづらい牛も授精を繰り返し行い、空胎日数および分娩間隔が遅延することになります。

また、分娩後の疾病は、さまざまな形でその後の繁殖性を低下させることが知られています。

10) 環境／衛生／飼養管理

農場の問題の多くは、牛群の管理を見直すことで改善されることがあります。繁殖を行う前に分娩後の疾病の予防、その前に乾乳期の管理が重要になります。

以上、農場を理解するためには1)から10)の順番に見ていきます。改善を行うための牛群へのアプローチは10)から7)、その結果を評価するのは10)から1)の順番となります。繁殖性を高める、そして生産を安定させるために最も重要なのは10)の環境／衛生／飼養管理です。それぞれの農場で牛群全体の繁殖の問題を改善するための対策は異なります。

それぞれの農場で期待する成果を効率よく得るためには、個別管理ができる農場では、改善が必要な牛の特徴、産次、季節を、集団管理が中心の大規模農場では、改善が必要なペン、牛の特徴、産次、季節を解析して該当

牛の対策を考えることが大切です。

具体的な対策を立てるためには情報が必要です。1)から10)の項目の多くは乳用牛群検定の成績で読み取れます。

乳用牛群検定成績は牛群の改良、エサの設計、繁殖の管理、衛生管理にも役立つ情報です。加入している農場では、是非有効に利用してください。加入していない農場では、日々の搾乳／繁殖の記録とバルク乳の旬報を活用してください。“測定なくして、コントロールはできない (No measure, Nocontrol)”です。

繁殖性を高めるためには



自分の農場の牛群の特徴を知り、それぞれの管理ステージでポイントを絞って牛を視ることです。牛を視るポイントについて考えてみます。

乳牛で疾病の多い時期は分娩後30日以内です。死亡廃用の事故が多い時期も分娩後30日以内です。逆に考えれば、この時期に農場のほとんどの牛が病気にならないように管理をすればよいこととなります。

その管理のポイントは、分娩前の乾乳期および分娩管理ということになります。分娩後泌乳初期に乳生産に必要なエネルギーは、妊娠末期に胎子の発育に必要なエネルギーの20倍以上になります。そのエネルギーを生産できる体を乾乳期に作り上げておかないと、分娩を境にエネルギー不足となり病気となってしまいます。

したがって、乾乳期にはゆっくりと休める

環境、衛生的に管理された環境、おいしい餌がいつでもお腹いっぱい食べられる環境、おいしい水がたくさん飲める環境作りが必要です。

受胎して分娩を迎える牛に対しては、全ての牛に同じように分娩後の乳生産を期待します。その期待に牛が応えることができるかは、分娩後の30日間にかかっています。うまく分娩後30日間の危険な時期を乗り切れるかで、その後の繁殖成績、乳生産、その牛の在籍期間が決まります。

分娩前の牛の見方のポイント

- 1) 分娩間隔が長い牛は、受胎しにくくなります。前回の分娩間隔が460日を超える牛は分娩後に受胎できる可能性は360日以内の牛に対して、60%以下と低くなります。乾乳する前に、その牛の空胎日数に妊娠期間の280日を加え分娩間隔が400日を超える牛は要注意牛とし、定期的に観察します。
- 2) 乾乳に入る前に、牛の体脂肪の蓄積具合（ボディコンディションスコア：BCS）およびルーメンの充満度（ルーメンフィルスコア：RFS）を確認し、乾乳期間中にBCSおよびRFSが下がらないように管理します。
- 3) 乾乳期は牛体の衛生管理にも気をつけ、敷料の交換頻度を高める、乾燥した環境を維持する、十分な換気を行います。牛体の汚れ具合を指標とした衛生スコア（乳房、大腿、下腿のスコア）

で、牛体の新しい汚れの面積を10%以内に保ちます。

- 4) 牛の移動は1つの場所に2週間以内の短い滞在期間にならないように余裕を持って行います。
- 5) 乾乳後期では、フリーバーンの場合には休息環境の頭数密度は1頭当たり10㎡より高くしないように前後の環境で調整します。フリーストールの場合は、行き止まりのない環境で、飼養密度、飼槽密度（幅70cm/頭）は100%を超えないようにします。この状況は、2)のBCSまたはRFSの変化にも反映します。

おわりに



牛の繁殖性の改善には牛を視ること、分娩前の管理を徹底的に牛に合わせることです。牛の繁殖はその時の状況よりも、そこに至る状況が大きく反映します。現在、繁殖性に改善が必要な場合には、該当する牛はもちろんですが、これから繁殖を行う分娩前の牛の管理の見直しが必要です。

具体的な対策については、農場の現状によって異なるため、提示できませんが、**人、環境、管理、分娩前**をキーワードに牛を視てください。何か、気がついたところはもう一度ゆっくりと全体から眺めてください。それが、あなたの農場の繁殖性改善の糸口になるかもしれません。

（筆者：酪農学園大学獣医学類ハードヘルス学ユニット教授）

おらが故郷の経営自慢

地域が支え、地域を支える担い手として 小川学さん（北海道猿払村）の経営

東宗谷農業協同組合 工藤祐希江

平成27年度全農酪農経営体験発表会で最優秀賞（農林水産大臣賞）を受賞した小川学さんの経営概要を紹介します。

地域の概要



牧場のある猿払村は北海道北部の宗谷郡猿払村にあり、最高気温は32.7℃、最低気温はマイナス21.1℃と、年間の気温の差が大きく、風雪の厳しい地域です。

猿払村の人口は2800人弱、酪農と漁業が基幹産業で、酪農家戸数は61戸、飼養総頭数は7,807頭（うち経産牛4,081頭）、1戸当たりの平均飼養頭数は128頭となっています。

牧場の概要



小川さんは経産牛88頭を飼養。平成7年に北海道文理科短期大学を卒業後、猿払村酪農ヘルパー組合に就職。その後、組合を退職して平成14年に実家の農場に就農しました。しかし、父親との経営方針の違いなどを理由に就農を断念。平成16年に浜頓別町内のコントラクター企業に就職しました。

さらに2年後、TMRセンターの(有)浅茅野システムレボのさそいを受け、会社を退職、平



全農酪農経営体験発表会で発表する小川さん



フィードパーテンション

成18年に病気で離農する構成員（酪農家）の農場で浅茅野システムレボの従業員として牧場管理を行い、その後JA正組合員となり小川牧場として新たな経営をスタートさせました。平成20年には牧場を買い取っています。

買い取り当時の牧場等の資産の内訳は以下の通りです。

- ・経産牛64頭、育成牛14頭
- ・対尻式つなぎパイプライン牛舎1棟
- ・哺育育成舎1棟
- ・機械庫1棟
- ・乾草庫2棟
- ・採草地43ha
- ・住宅

経営の特徴

① 牛の能力を最大限発揮させるための取り組み

小川さんは生産効率を上げるためには牛の健康管理が重要であると考え、常に牛舎

環境の維持に努めています。具体的には、換気扇や送風機による温度、湿度の管理や、牛舎の採光窓の位置を高くすることで、牛体に直接日光が当たらないように工夫しています。

また、乳房炎予防のために、牛床管理には特に気を配っているほか、つなぎ牛舎とロボット牛舎の間には、猿払産のホタテの貝殻を熱処理し、粉碎したものを敷いて牛道が泥濁化するのを防いでいます。

を防いでいます。

さらに、基本的な牛の観察に加え、牧場管理システムや乳検データを積極的に活用・分析し、収益性を高めています。その結果、毎年着実に出荷乳量を伸ばしており、就農以降、経営収支は毎年黒字計上となっています。

② TMRセンターを活用した粗飼料生産の外部的

43haの牧草地を所有していますが、収穫した牧草は、TMRセンターに原料として販売し、TMRを購入（牧草サイレージと濃厚飼料をミキシングし、構成員に毎日配達される）しています。牧草はTMRセンターの作業体系に合わせて（収穫が早い地区にはオーチャードグラスを、遅い地区にはチモシーを播種）使い分けています。オーチャードグラスは3番草まで収穫できるため、限られた面積で効率的かつ最大限の収量が得られます。



ロボット牛舎

ほ場にはスラリーを投入していますが、TMRセンターで毎年土壌分析を実施し、草地更新や施肥管理に活用しています。

粗飼料収穫／飼料調製にかかわる機械はTMRセンターで計画的に導入管理しているほか、センターでは2週間に1度、サイレージの飼料分析を行い、それに基づいて飼料設計を実施しています。このように、飼料生産にかかる部分を外部化することで飼養管理に集中しています。

③ 搾乳ロボットの導入など、省力化に努める。

規模拡大を進めていく上で、現在の労働力（本人、妻）では限界を感じ、平成23年か

ら搾乳ロボットを導入。これに伴い牛舎も新築し、フリーストールのロボット牛舎を建築しました。現在、ほとんどの搾乳牛は搾乳ロボットによる搾乳を行っていますが、蹄の状態が悪い牛やフレッシュ牛はつ



搾乳ロボット



つなぎ牛舎

なぎ牛舎で搾乳しています。このため、供用種雄牛は搾乳ロボットに適した牛（性格がおとなしい、乳頭配置のバランスが良い、体格が大きすぎないなど）を選定して交配しています。搾乳ロボット導入で省力化した中で増頭が可能となり、乳量も増えて所得率も上がっています。

地域とのつながり

小川さんは宗谷地区農協青年部連絡協議会の役員を歴任し、現在は副会長を務めています。青年部では以下の活動を実施しています。

- ・教員を対象にファームステイを実施。先生に現場を体験してもらうことで、地元の子どもたちに酪農の魅力を伝える
- ・酪農を通じて食や命の大切さを伝える活動として、小学校での出前授業で酪農紙芝居を実施
- ・魅せる酪農をテーマに、子供達に根づいていくついで、汚い、危険、もうからないと

いう酪農のイメージを変えようと活動

- ・生乳需要拡大や消費者への酪農業理解促進イベントに参加
 - ・今後の農政を担う農水若手職員に酪農の現状を理解してもらうため、会員宅での酪農実習や会員との懇談会を開催。
- また、TMRセンターの構成員として地域の酪農を支える存在となっており、家族経営における省力化・高所得経営の

モデルケースとなり、地域の若手にも良い刺激となっています。

今後の目標

小川さんは今後に向けて、次のような目標を持っています。

① 増築・増頭を目指す

ロボット牛舎を増築（または新たに140頭規模のロボット牛舎を新築）し、2台目の搾乳ロボットを導入する

② 29年には1000t出荷

ロボット牛舎に投資した分をなるべく早く回収

③ コントラクター会社の立ち上げ

TMRセンターの作業を100%外部化し、構成員の負担を軽減すると共に、地域の酪農家の作業をうけ入れる事で、地域全体を支える体制を作りたい。

その一方で、長期的には規模縮小という可能性も視野にいれ、ロボット牛舎に搾乳作業



小学校での出前授業

を集約し、1日の作業時間を7、8時間に抑えるゆとりある経営を目指すとともに、早い時期に引退し、次の世代につなげていきたい。目標の内いずれかが、5年後の展開となる。

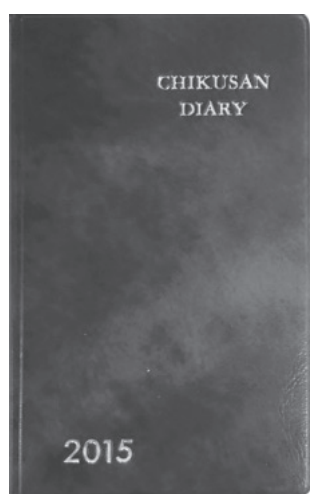
最後に、新規就農した時に、地域やTMR

センターが支えてくれたように、自分の経験や技術を若い世代の人達にアドバイスする事が、地域の発展につながればと考えていています。

(筆者：東宗谷農業協同組合営農部)

参考図書のご案内

2016年用 畜産手帳 —CHIKUSAN DIARY 2016—



※写真は2015年用のものです

■仕様

高級発泡シート（ポケット付き）、日記等2色刷
住所録・各種畜産関係統計資料等付録

■サイズ

140mm×80mm

■主な掲載内容

- 住所録（中央官庁・地方庁・畜産関係団体・会社・道府県畜産協会等）
- 各種畜産関係統計資料等
 - ・飼養戸数・頭羽数・生産・需給関係データ
 - ・主要国の畜産生産状況
 - ・家畜繁殖関係・飼養管理関係
 - ・家畜改良増殖目標
 - ・飼料関係（畜種別養分要求量、主要飼料養分早見表、種類別容積重量等）
 - ・営農関係（生産費、労働時間、固定資産評価基準、家畜ふん尿関係データ、施用基準等）
 - ・畜産物の価格（安定価格・販売価格の推移、取引規格等、家計消費統計も充実）
 - ・衛生関係データ
 - ・畜産関係融資制度 など

○お問い合わせ・お申し込み先○

公益社団法人中央畜産会 経営支援部（情報）

〒101-0021 東京都千代田区外神田 2-16-2 第2 ディアイシービル 9階
TEL：03-6206-0846 FAX：03-5289-0890 Email：book@jlja.jp

中央畜産会からのお知らせ

「平成27年度全国優良畜産経営管理技術発表会」開催のお知らせ

公益社団法人中央畜産会は、中央畜産会の会員（167組織）等が行う支援活動を通じて明らかにされた優秀な実績を収めている経営、および、経営の課題解決のための取り組みを行っている畜産経営等について表彰するとともに、これらを通じて明らかになった経営の成果等について広く紹介し、畜産経営の改善に資することを目的として「全国優良畜産経営管理技術発表会」の事業を行っています。

今般、各会員から推薦をうけました推薦事例について、7名により構成する審査委員会（審査委員長：岡山大学大学院環境生命科学研究科 横溝功教授）において審査等を行い、審査対象として下記の8事例を選定しました。以下のスケジュールで平成27年度全国優良畜産経営管理技術発表会を開催し、最優秀賞4点と優秀賞4点を選考・表彰いたします。

◆催事内容◆

- 1) 開催日時 : 平成27年11月12日（木）13：30～17：30
- 2) 主 催 : 公益社団法人中央畜産会
- 3) 後 援 : 農林水産省、地方競馬全国協会
- 4) 会 場 : 東京都千代田区日比谷公園1番4号 日比谷図書文化館 地下1階
日比谷コンベンションホール（大ホール）

発表予定事例

発表テーマ（仮）	県	経営類型	事例名称
干拓地におけるトウモロコシ二期作生産による大規模低コスト酪農経営への挑戦	岡山県	酪農	株式会社 竹信牧場
アンテナは高く、垣根は低く、一步先を行く攻めの経営	宮崎県	肉用牛繁殖	黒木 松吾
高度な管理で望む常陸牛生産（経営管理で未来を見つめる）	茨城県	肉用牛肥育	安達 政弘
マルチサイトシステム	岩手県	養豚	有限会社 コマクサファーム
繁殖技術改善による繁殖成績の向上	秋田県	養豚	有限会社 細川農興
「日本一美味しい豚肉の創造で共に幸せになる」をモットーに	三重県	養豚	有限会社 一志ピックファーム
地域ブランド認証品目の産地形成確立と信頼される「美味豚の探求」	鹿児島県	養豚	有限会社大成畜産 中村農場
環境のふるさと作りを目指した養鶏 目標：農業を営んで人生の意義と幸福を体得する！	長野県	採卵鶏	農業組合法人 会田共同養鶏組合

お問い合わせは、（公社）中央畜産会経営支援部（担当：支援・調査 水野、中西）
（TEL 03-6206-0843）まで

(独)農畜産業振興機構からのお知らせ**肉用牛肥育経営安定特別対策事業(新マルキン事業)
の補填金単価(概算払)について****[平成27年8月分]**

平成27年8月に販売された交付対象の契約肥育牛に適用する肉用牛肥育経営安定特別対策事業実施要綱附則9の概算払の補填金単価について、表1および表2の通り公表しました。

また、平成27年8月に販売された生産者積立金の納付が免除された交付対象の契約肥育牛に適用する補填金単価については、表3の通り公表しました。

なお、補填金単価の確定値については、11月上旬に公表する予定です。

(表1) 補填金単価の算定(全国)

単位:円/頭

区 分	肉専用種(地域算定県を除く)	交 雑 種	乳 用 種
粗収益 (A)	1,099,868	739,690	452,463
生産コスト (B)	1,028,699	739,843	448,093
差額 (C)=(A)-(B)	71,169	△ 153	4,370
暫定補填金単価 (D)=(C)×0.8	—	—	—
補填金単価(概算払) (D)-4,000	—	—	—

注:平成26年4月分から、消費税抜きで算定しています。

100円未満切り捨て

(表2) 補填金単価の算定(地域算定県・肉専用種)※

単位:円/頭

広島県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	鹿児島県
—	—	—	—	—	—	—

※ 各県の算定結果です。

(表3) 補填金単価(概算払)(生産者積立金の納付が免除された交付対象の契約肥育牛)

単位:円/頭

肉専用種	交 雑 種	乳 用 種
—	—	—

注:補填金交付額に見合う財源が不足する場合等、上記補填金単価を減額することがあります。

あいであ & アイデア

子牛の防寒対策で発育向上 ～安価で衛生的な木枠式子牛ベット～

大分県 白根 英治

子牛のベットの必要性

大分県の久住高原・飯田高原などの冬季の寒さが厳しい地域では、哺乳期の子牛は、被毛が薄く皮下脂肪が少ないことから、体温の調節がうまくできず体調を崩しやすくなり、下痢や肺炎などの疾病が発生しがちです。

哺乳期の疾病は、治療の手間がかかるだけでなく、その後の子牛の成長にも大きく影響を及ぼし生産者の悩みの種となっています。

子牛の体温調整を図るには、カウハッチなどの小屋を用意し、乾いた敷料を用いて保温を行い、赤外線ヒーターや投光器を用いて、体温の低下を防ぎ、腹を冷やさないようにする必要があります。

今回は、睡眠や休息をとる「寝床」に注目し、子牛にとって居心地の良い環境作りを目指すために木枠式子牛ベットを紹介します。

ポイントは低コストと普及性

なるべく農家の負担にならないように「安価な材料」で、より普及しやすいように「容易に手に入る材料」を心がけました。

子牛用ベットの木枠は、内のり100cm、深さ25cmほどです。普段の飼育場所に設置して、



清潔で居心地の良いベッドが完成

(材料)

- ・木板 長さ 100cm 幅 25cm 厚さ 3cm @1,000円
- ・ネジ釘 7.5cm @10円



(図1) 作業工程：日曜大工で簡単製作

おがくず等を入れれば、ふかふか寝床の出来上がりです。木枠で囲われていることで敷料が散らばることなく、保温効果を期待できる仕組みです。

材料と製作

木枠の材料及び製作工程を図1に示します。1個当たりの材料費は1000円程度、必要な道具もノコギリ、金槌、ネジ釘、メジャーとごく一般的なものでできました。

設置の効果

ベット上と床上の表面温度を比較すると、最大9℃から4℃ほどベット上が高く、一定の保温効果が確認されました。

また、このサイズの場合、かなり大きく育っても牛が座ることができました。さらに、赤外線投射を加えると効果が高いことも判りました。おがくず以外に乾いた牧草やワラでも有効でした。

使用農家の感想として、「シンプルかつ丈夫なので枠が安定し、壊れる心配がない」。「枠を持ち上げることで簡単に敷料を総入れ替えできる」といったご意見を伺えました。

また、底がないので尿等がベッドを通過することから乾燥した状態を保つことができ、普段の掃除は汚れた部分の敷料を補充するのみで、全部取り替えるのには10日に1度の間隔となりました。このため、おがくずの使用量が40%削減されたという効果もありました。

今後、それぞれの農家の工夫も加えながら、さらに普及することを期待しています。

(筆者：大分県庁農林水産部森との共生推進室森林環境保護班 主幹)